カンボジアの今をお届けする

2023.2

NyoNyum 11号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI

2023 年度の活動が、１月２日からスタート！

1月2日、カンボジアの学校では、新年度を迎えました。配属先のスバイリエン高校では、早朝7時半より、全校生徒約3200 名が一堂に集い、セレモニー（日本の始業式にあたる）が執り行われました。約２か月ぶりの生徒同士の再会、たくさんの笑顔が見られました（新入学の７年生は緊張の表情）。式は、校長先生、来賓2名の挨拶、その後、昨年度の成績優秀者の表彰と、約2時間にわたって行われました。

挨拶が、一人 25 分程度×3名、かつ徐々に気温も上がり、生徒の集中力が持ちませんでした💧

昨年度の成績優秀者の表彰式。賞状、記念品の授与があり、家族と共に記念写真を撮影。

昨年授業を担当していた7年生は、16 クラス（1クラス 40～50 人）ありましたが、今年は 12 クラスに減少。つまり、約 160 人、全体の 25％の生徒が、留年・退学をしたことになります。成績不良、家庭の経済的事情などが理由に挙げられますが、授業を担当していた生徒も多く退学していて、どうにもできない虚しさを感じてしまいました…

2023 年度の授業担当は、10 年生（高校１年生）と 12 年生（高校３年生）の全 12 クラス。現地の先生とチームティーチングで授業を行います。カンボジアでの体育の指導法についての研究を進め、お互いの指導力の向上を目指したいと思っています。また配属先での活動を軌道に乗せ、他校の先生方への指導法の普及も目指します。

全国共通で、「体力測定」が行われています。種目は、身長体重計測、長座体前屈、立ち幅跳び、反復横跳び、上体起こし、50m 走、5分完走です。

10 年生のマット運動と平均台運動の授業の様子。限られた用具・施設の中でも、工夫をしながら授業を進めています。突然、「授業をやっておいてくれ」と一人で授業を担当することもありますが、昨年の経験が活かされ、生徒たちと楽しく授業を行っています！

「平均台」の代わりとなるものを“段ボール”で製作。生徒の意欲が格段に向上しました！こういった用具の工夫も提案していきたいと思っています。

中高生を対象に『日本語教室』を開設！

学校の新年度のスタートと共に、予てから要望のあった『日本語教室』をスタートさせました。日本への関心や憧れを強く頂くカンボジアの若者たち、日本語学習にもとても興味を持っています。拙いクメール語を駆使して、（時にクメール語を教えてもらいながら）、楽しく日本語を学んでいます。

ひらがなの練習

自己紹介の練習

第１回目は、大家さんの娘（中学２年）や姪っ子（高校１年）など、４名でスタート。口コミで、一人また一人と生徒が増え、現在９名に。教室は、１回約１時間半、文字学習と会話練習が中心です。

物珍しさそうに、教室の様子を覗きにくる近所の子どもたち。

教室が終わった後は、生徒のお母さんの手料理のおもてなしを頂き、交流😊

生徒の学ぶことへの貪欲さには、とても驚かされます。さて、どんな教室になっていくのでしょうか。

特集「カンボジアの歴史・文化」③

カンボジアの「世界遺産」を紹介（2）

前号の「アンコール遺跡群」に続き、カンボジアで2番目に世界遺産に登録された「プレアヴィヒア寺院」を紹介します。

② プレアヴィヒア寺院

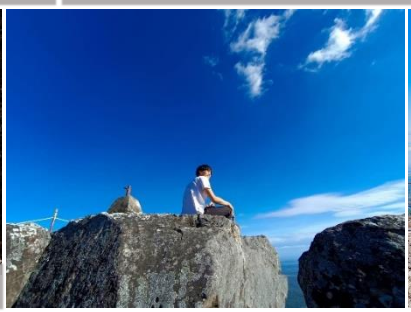
12月初旬、学校の長期休業中に訪問

世界文化遺産への登録は、2008 年。カンボジア北部、タイ国境沿いに位置しています。プレアヴィヒアは、クメール語で「神聖な寺院」を意味し、９世紀末にクメール人によって建設され（アンコールワット建設よりも時代は古い）、歴代の王によって増築されてきました。別名「天空の寺院」とも言われ、高さ 657ｍからの眺めはカンボジア随一の絶景です。

入場券を購入し、専用４WD 車に乗って山頂に移動。

石畳の道を登り、５つの楼門を潜り抜け、頂上を目指します。

精巧なレリーフ（彫刻）も見応えあり!!



いつまでもこの景色を見ていたかった！！

連載企画 「ボール を通した国際交流」 part1

JICA『「世界の笑顔のために」プログラム』(*)の制度を利用し、日本の所属校である市立札幌藻岩高等学校から配属先のスバイリエン高校に、代用品を準備するのが難しいボールを送ってもらうことになりました。所属校では、「異文化を知り、世界と交流する機会になってくれれば」という思いのもとプロジェクトへの参加生徒を募集。７名の生徒が興味を持ち集まってくれました。ボールを通じた「日本×カンボジア」の交流の様子を、連載にしてご紹介します。

廃棄予定の大量のボール。「いつか必要としている国へ送ることができれば」という思いのもと、学校の倉庫に保管をしていました。ようやく役立つときがやってきました！！

11 月７日に、「顔が見える国際協力に」という思いから、オンラインにて、カンボジアの体育事情を紹介する事前学習を実施。その後、発送に向けた作業を行ってくれました。生徒たちは、カンボジアの同世代の仲間に想いを馳せながら、ボールを一つ一つ丁寧に磨き、梱包していたようです。日本の体育の様子を紹介する写真とお手紙も添えてくれたとのこと。２月末から３月上旬にカンボジアに到着予定です。

事前学習では、高木先生からカンボジアの学校や体育教育の現状についてお話を聞かせて頂きました。その中で、カンボジアの生徒たちが体育の授業に励む姿や休み時間に元気に遊ぶ姿を見ることができました。私が体育を通して実感している「運動の楽しさ」や「運動を通して得られるコミュニケーション」を、カンボジアの生徒たちにももっと味わってもらえたら嬉しいなという想いから今回のプロジェクトの参加に至りました。今回の活動をきっかけに『世界との繋がり』を大切にしていきたいです。

市立札幌藻岩高校２年
中山　紫琉

『「世界の笑顔のために」プログラム』とは？

開発途上国で必要とされている、スポーツ、文化、教育などの関連物品の提供者を、日本国内で募集し、JICA が海外協力隊や在外事務所を通じ、世界各地へ届けるプログラム。「国際協力への参加を身近に感じてもらうこと」および「途上国への貢献」を目的に開始されました。現在、春と秋の年2回実施しています。

（引用:JICA ホームページ）